

2023年度入試

入学試験問題集

【子ども学部 子ども学科】



東京成徳大学

TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	4
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	5
編入学試験 小論文	6
一般選抜D日程入試	7
出題意図	8

「一般選抜A日程・B日程・C日程」の問題は、
「2023年度入試問題集 一般選抜A日程・
B日程・C日程」に掲載しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】(試験時間:60分)

以下の文章を読み、設問に答えなさい。(各300文字以内・横書き)

設問1. 「親」「学校教育」以外の「社会化エージェント」において、あなたにとって学習のきっかけになった事柄を具体的に述べなさい。

設問2. 下線部の中の「大きなリスクがつきまとっている」とは、どのようなことが考えられるでしょうか。子どもにとっての不利益の観点から、具体的に述べなさい。

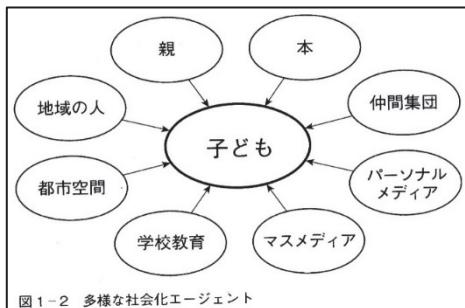
そもそも「教育」とは何なのでしょうか。私は、「教育(education)」を定義するとき、「教育とは、誰かが意図的に、他者の学習を組織化しようとしている」という定義を与えています(広田 2009)。「教育とは何か」については、いろいろな人がいろいろな定義をしていますが、おそらく、最もシンプルな定義の一つだと思います。いろいろなものをそぎ落としてみて、最後まで残る重要な性質を、私は「教育」の定義に使っています。

(中略)

教育の場であれ、そうでない場であれ、人は生きていること自体の中で、いつのまにか、さまざまなことを学びます。これを「学習(learning)」といいます。

それとよく似た概念が、「社会化(socialization)」です。人が外にある何かを自分の知識や感じ方として学ぶことを、「社会化」と呼びます。個人が学習することの多くは、たいていの場合、社会の中にある知識や考え方や価値観や感じ方だったりしますから、通常は、学習は社会化とほぼ同じ意味になります。教育と学習はイコールではないけれど、社会化は学習に近いものだといえます。

教育と社会化との関係をどう考えるかという話へ進みます。社会化は、全体として教育より広い概念です。社会の中での個人のさまざまな学習全体をカバーするのが社会化です。実際に、子どもがどうやって学習していくのかを考えると、子どもの周囲にいる(ある)さまざまな人や物が学習のきっかけになります。これを「社会化エージェント」と言います。社会化を進めるためのいろいろな主体です。社会化エージェントが子どもの周りに多様にあることがわかります(図1-2)。



まず、子どもが学校に行って教師から学びます。また、当然、家庭の中で親から学びます。親がいろいろ教える部分もありますが、学習は、親が何か教えなくても、親の様子を見ていて学ぶ、親と話をしていて学ぶなど、いくらでもあります。それら全部が家庭での社会化になります。

(中略)

図1-2でみたように、子どもは、社会化を誘発するような、たくさんの人や物—社会化エージェント—に囲まれて生きています。このことから、いくつかのお話をしたいと思います。

ここで私がもっとも言いたいことは、まず第一に、学校教育の影響力は限定的だということです。図1-2で明らかのように、学校教育はたくさんの社会化エージェントの中の一つにすぎません。子どもたちが経験する社会化総体の中の、学校教育の影響力は限られているのです。

このことは、勉強が苦手な子や、学校に行くのを苦痛に感じるような子どもにとっては、救いがあるということを意味しています。学校教育で学ぶのが苦手な子どもでも、そのほかのものからいろいろなことを自然に学習していくのが普通だからです。勉強ができないからといって、一人前の大人になれないわけではありません。不登校を続けた子どもでも、社会に出て行くきっかけをつかんだ子は、何とか自立したり、飛躍のチャンスを活かしてやっています。

このような議論を押し進めると、「学校不要論」のような議論も登場してきます。子どもが、別に学校に行ってまじめに勉強しなくとも、身の回りからいろいろ学べると考えてもおかしくありません。実際、今はさまざまな情報をインターネットで簡単に手に入れることができますようになりました。二〇二一年には子どもユーチューバーのゆたぽん君が、「中学校には行きません」と宣言して話題になりました。米国では、親が子どもの学習の責任を負う、「ホームスクーリング」が一部で広がっています。

しかし、私は「学校は不要だ」とは思わないし、「学校に行かない」という選択は、さまざまな不利益も覚悟しないといけないので、おすすめしません。ごく普通の家庭環境にある子どもには、学校でしか学べないものがたくさんあると思っています。「学校に行くことができない」という不登校の子どもには、学校に代わる学習の機会や資格取得の機会などをしっかりサポートすることが必要なのはもちろんですが、「あえて学校に行かない」という選択には大きなリスクがつきまとっていることを理解しておくべきでしょう。

出典：広田照幸、『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』、筑摩書房、2022年、ISBN978-4-480-68428-8、P18、P28-33

●総合型選抜 10月入試

【小論文】(試験時間：60分)

以下の課題文および資料を読んで、後の設問に解答しなさい。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、在宅時間の増加や、学校におけるICT活用の拡大など子どもを取り巻く遊びや学びの環境が変化している。ベネッセ教育総合研究所（2021）は、年少児（3歳児）から小学校3年生のメディアの使用実態と、保護者の子どものデジタルメディア使用に対する意識について調査をした。

調査対象は、年少児（3歳児）～小学校3年生の第一子を持つ母親であり、有効回答数は、3096名（各516名×6学年）であった。

表1は、「子どもにタブレット端末、スマートフォン、パソコン（学習用専用端末や学校から配布された端末も含む）などのデジタルメディアで、以下のことをさせることはありますか。（複数回答あり）」という質問に対する結果（%）を示したものである。例えば、デジタルメディアを使った活動として最も多いのが「動画視聴（動画サイトを含む）」で、幼児83.8%、小学生80.2%が選択したことを示している。

表1 デジタルメディアを使った活動（%）

	幼児	小学生	年少 (352)	年中 (352)	年長 (376)	小1 (392)	小2 (402)	小3 (432)
動画視聴 (動画サイトを含む)	83.8	80.2	84.9	83.5	83.0	78.6	77.9	83.8
写真撮影	48.1	44.2	47.7	52.3	44.4	46.4	42.8	43.5
ゲームをする	40.0	50.4	33.5	42.3	43.9	48.0	52.0	51.2
ひらがなや数遊び	35.2	16.5	31.8	34.9	38.6	25.0	15.2	10.0
音楽を聴く	31.5	32.5	29.0	32.4	33.0	31.1	29.9	36.1
お絵描き (ぬり絵を含む)	24.6	14.6	25.6	25.9	22.6	17.1	14.7	12.3
英語	15.1	16.6	15.6	13.6	16.0	15.6	16.4	17.8
絵本（電子書籍を含む）	12.6	11.6	13.9	10.8	13.0	15.1	10.9	9.0
通話やメール、SNSをする	12.5	19.7	11.1	12.5	13.8	16.3	19.9	22.5
身体を動かせるような プログラム	6.9	5.6	6.3	8.8	5.9	4.6	6.0	6.3
情報を検索する (勉強を含む)	4.4	19.8	0.6	3.4	9.0	13.8	18.7	26.4
園、学校や習い事、塾等から配信 されるプログラムを視聴する	4.4	9.3	3.1	4.8	5.3	11.0	9.0	8.1
オンラインで授業を受ける (園、学校、習い事、塾を含む)	3.7	12.3	1.1	3.7	6.1	11.7	13.2	12.0
宿題以外の勉強をする	2.5	10.3	1.1	2.6	3.7	11.7	8.2	10.9
ニュースを見る	1.9	4.8	1.1	1.1	3.5	2.8	2.7	8.6
園や学校の宿題をする	1.4	6.9	0.6	0.9	2.7	7.7	7.2	5.8
その他	0.9	1.5	1.1	0.3	1.3	1.5	1.2	1.6

グラフ1は、「園・学校での保育・教育活動に、デジタルメディアの活用（映像配信やオンライン授業を含む）を進めてほしいと思いますか。」という質問に対する結果（%）を示したものである。「とてもそう思う」「まあそう思う」の選択に対し、デジタルメディアの活用に肯定的とし、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の選択に対し、デジタルメディアの活用に否定的とする。「どちらともいえない」の選択に対しては、判断しかねているとする。

グラフ1 園・学校でのデジタルメディアの活用意向（%）



出典：ベネッセ教育総合研究所（2021）「幼児期から小学校低学年の親子のメディア活用調査-2021年1月実施-速報版」

〈https://berd.benesse.jp/up_images/research/media_20211124.pdf〉より一部改変

【問題1】

表1に基づいて、小学生になると選択率が最も増えている選択肢を答えなさい。また、その選択肢における幼児と小学生の選択率の差を計算し、その結果を%で示しなさい。なお、計算過程は示さなくてよい。

【問題2】

あなたは、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭という、子どもの教育に携わる職業の人々が、デジタルメディアを使った活動を取り組むにあたって、子どもと保護者に対して、どのような心がけをしていくことが望ましいと考えますか。表1とグラフ1から読み取れることと関連させながら、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】(試験時間:60分)

友人関係の変化について書かれた以下の文章を読み、設間に答えなさい。

設問 本文の要点を述べたうえで、現代の友人関係のあり方について、あなたの考えを六〇〇字以内で論じてください。

友人という言葉が指し示す意味合いの変化は、友人・友だちというつながりの本質的な転換を想起させる。友人関係の大切さは、たしかに、今も昔も変わらないだろう。しかし、友人・友だちというつながりのあり方は、今と昔では根本的に異なっているのである。

友人をるべき人間関係の理想像と見なしていた時代には、友人はつながりのあり方の到達目標ととらえられていた。ゆえに誰かと友人関係になるには長い時間がかかった。アリストテレスも、「友愛が育つには、さらに、時間と親密さが必要」と述べている。つまり、友人とは、長年つきあいを育んでやっと得られる可能性のある「奇蹟」の産物だったのである。

一緒に育むことで成り立つ友人関係は、人間関係があるていど固定しているからこそ可能なものだ。つきあう相手が頻繁に変わる社会では、時間をかけて友情を育むことは難しい。場所や所属先を頻繁に移動しながら、ときにはオンラインで人とつながる社会では、固有の人に割く時間は圧倒的に少なくなる。

流動性の高い社会で人間関係を確保するには、挨拶するだけの関係も友だちとしてキープしておかなければならぬ。現代社会を生きる私たちは、「よっ友」^(注)のように、つながりにあらかじめ「友人」「友だち」というラベルを貼り付け、つながりを確保しなければならないのである。さもなければ私たちには孤立が待ち受けている。

(注) 「よっ友」・・・挨拶するだけの友達

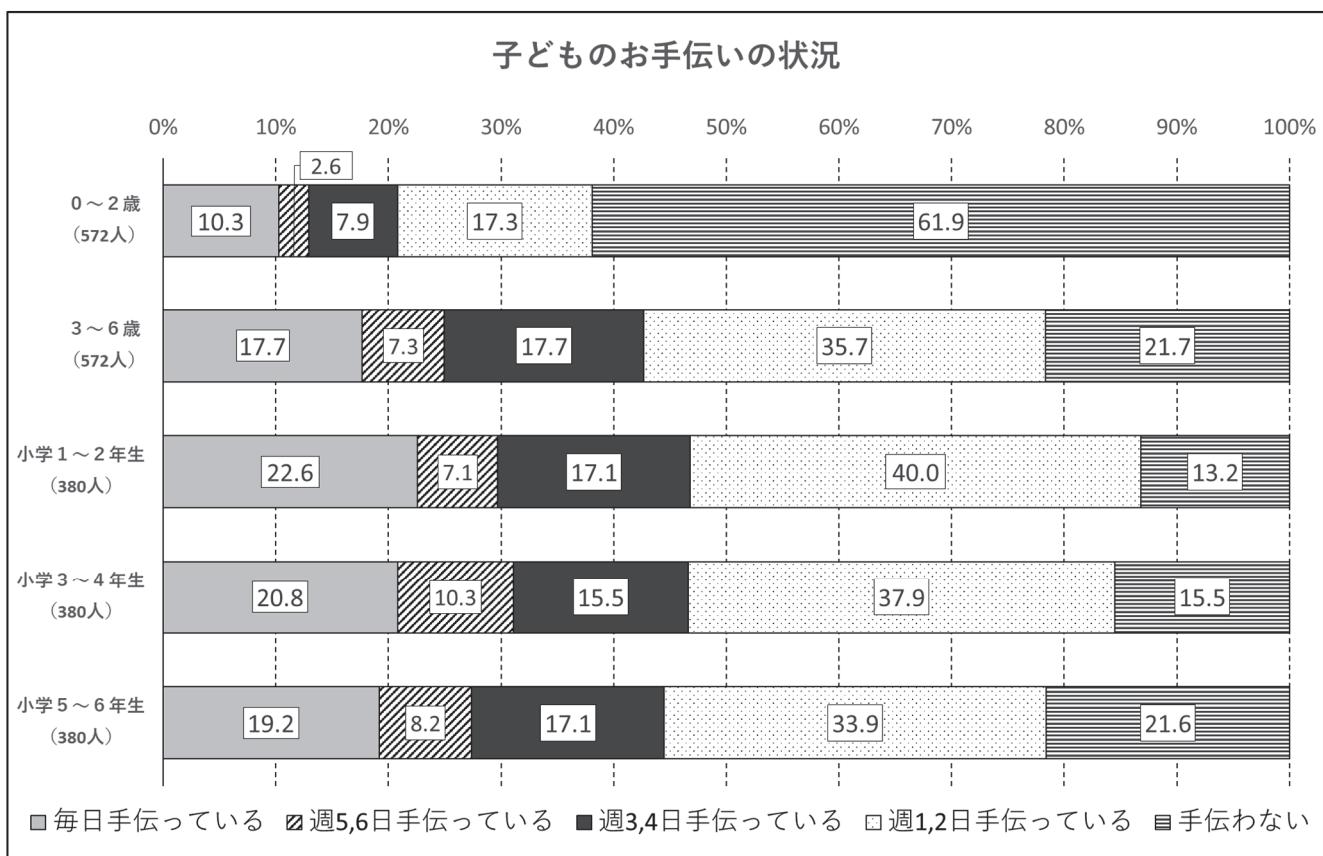
(出典: 石田光規『「友だち」から自由になる』光文社、2022年)

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60分）

以下の図は、子どもがいる保護者に対して、自分の子どもが家庭でお手伝いをする頻度について調査した結果を示したものです。ここでの「お手伝い」は、家事（料理、食事の準備・片付け、収納・ゴミ捨て、掃除、洗濯、ペットの世話等）の一部または全部を行うことを指します。

この図から読み取った内容を2点以上説明し、それらを踏まえて子どもが家庭でお手伝いを行うことの意義について、あなたの考えを800字以内で論じてください。



注) 各年齢区分の下の()内の数字は、回答した保護者の人数

出典：文部科学省委託調査（2019）「平成30年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究～子供の生活習慣と大人の生活習慣等との関係に関する調査研究～ 報告書」
※作問者により一部改変

●編入学試験

【小論文】(試験時間：60分)

【問題】

以下の図1は養成校の学生を対象に、図2は現役の幼稚園教諭・保育教諭を対象に、働き方や仕事の継続意向について調査した結果を示したもので。まず、この2つの図から読み取れることを説明してください。次に、幼稚園教諭や保育教諭の仕事の継続の現状についてあなたがどのように認識しているかを述べてください。そして、上述してきたことを踏まえて持続可能な働き方を実現するためにはどのようなことが必要かについてあなたの考えを論じてください。以上のことについて800字以内でまとめて下さい。

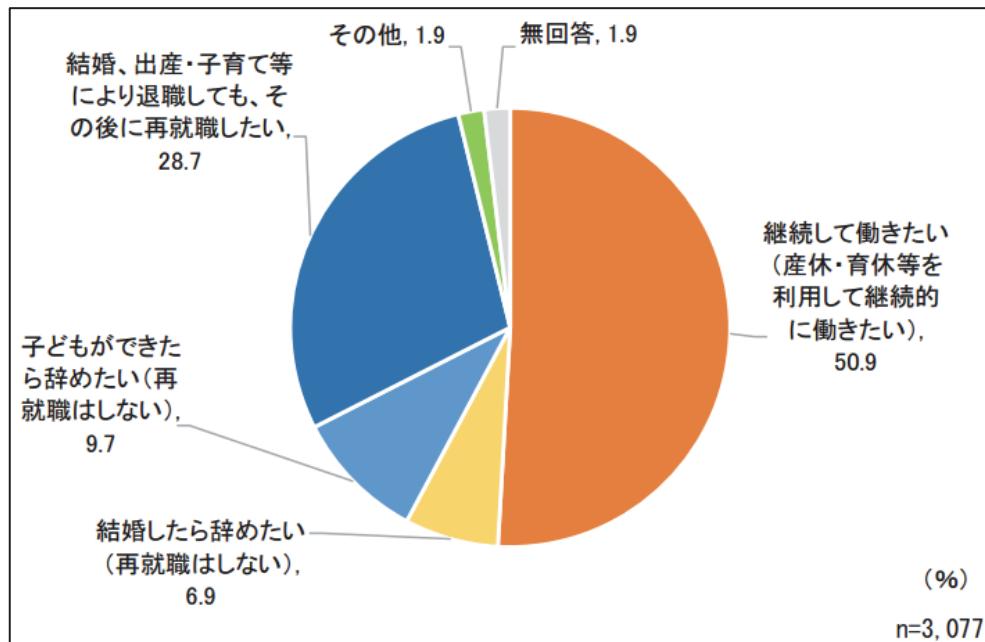


図1. 就職後の働き方の希望 (養成校の学生)

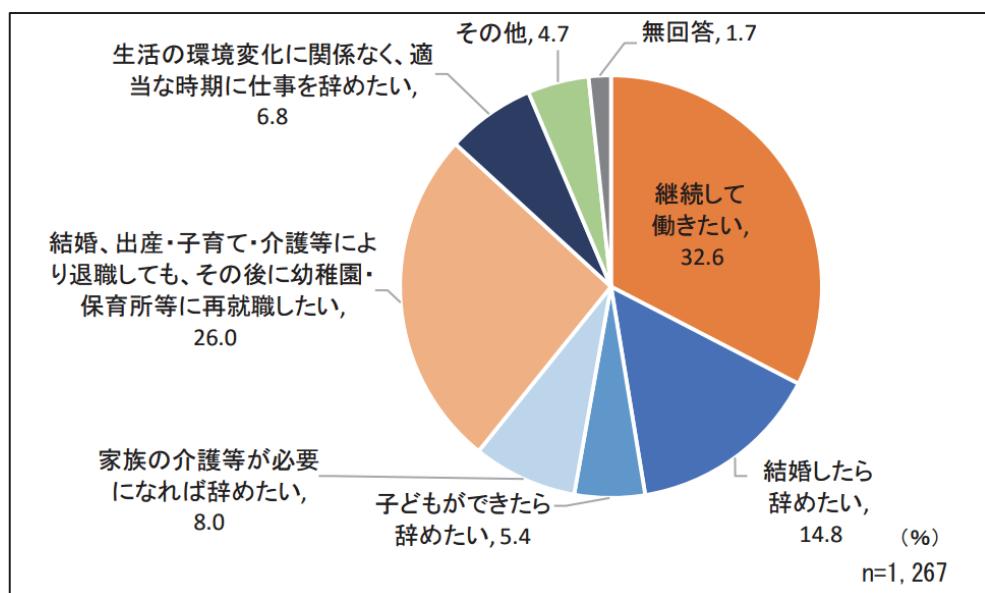


図2. 今後の幼稚園教諭の継続意向 (現役教員)

図1・図2の出典) 広島県私立幼稚園連盟 (2018) 「人材確保に向けた調査研究事業」報告書

注: 図1は広島県内及び近隣県の27の養成校の幼稚園教諭等養成課程に在籍する学生を対象に実施したアンケート調査の結果。

図2は広島県私立幼稚園連盟加盟205園勤務の教諭を対象に実施したアンケート調査の結果。

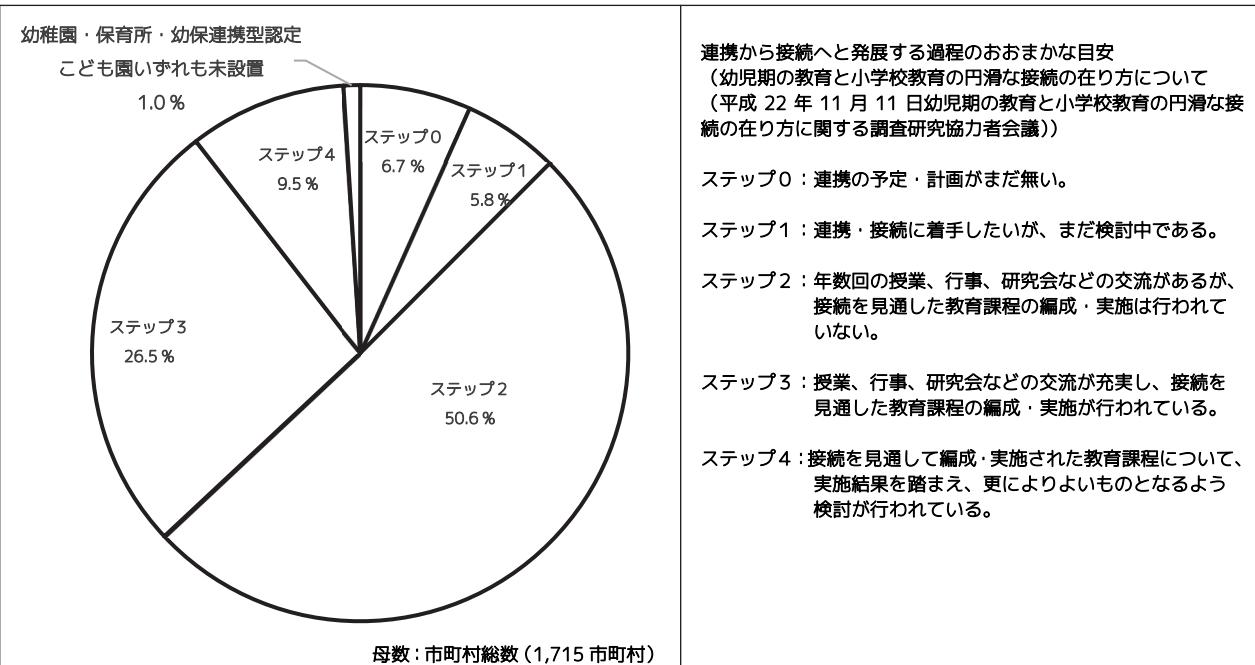
●一般選抜 D日程入試

【総合型問題】(試験時間：60分)

以下の資料は日本の幼稚教育と小学校教育の接続・連携に関する調査資料です。資料の内容を読んで、後の問題に解答しなさい。

資料1：市町村における幼小連携・接続の状況

●市町村における幼稚園等の教育と小学校教育との接続に向けた状況については、「ステップ2」が50.6%(867市町村)と最も多く、「ステップ3」、「ステップ4」、「ステップ0」、「ステップ1」と続く。



資料2：幼稚園における小学校との連携の取組

●小学校との連携の取組について、「園児と小学校児童との交流活動」が、全体の85.6%で最も高かった
(公立：97.3%、私立：78.4%)

	公立幼稚園	私立幼稚園	幼稚園合計
園児と小学校児童との交流活動	97.3%	78.4%	85.6%
幼稚園教諭と小学校教諭との合同研修会や研究会の開催	71.6%	37.9%	50.7%
幼稚園教諭による小学校の授業参観	82.9%	55.2%	65.7%
小学校教諭による園の保育参観	65.7%	29.4%	43.3%
小学校教育との接続を意識した教育課程の編成や指導計画の作成	56.6%	34.2%	42.8%
小学校と協同して、接続を意識したカリキュラムを編成・実施	25.1%	11.3%	16.5%
その他	15.6%	18.7%	17.5%

母数：調査回答園数（公立：3,183園、私立：5,163園、合計：8,346園）
出典：文部科学省初等中等教育局幼稚教育課「令和元年度幼稚教育実態調査」内容を一部改変

【問題1】

資料1の円グラフは、全国市町村における幼小連携・接続の状況を示したものである。連携の取り組みが「ステップ3」以上の段階で実施されている市町村数を資料に基づいて計算しなさい。小数点以下は四捨五入とする。

【問題2】

幼児の保育・教育と小学校教育との接続にあたっては「小学校教育の前倒しを避けるべきである」という意見がある。資料2の「幼稚園における小学校との連携の取り組み」調査報告内容を踏まえて、今後の連携の取り組みはどのように発展することが望ましいか、あなたの考えを具体的・現実的な提案として600字以内で論述しなさい。

●出題意図

総合型選抜 9月入試【出題意図】

本出題では、設問に対し、下記の点について自分の意見を分かりやすい文章で表現することができるかを見る。

1. 文章を適切に理解でき、かつ文意に沿った自分自身の経験を示すことができる。さらに、それらを具体的でわかりやすい文章として表現することができる。

2. 受験生にとって身近な場である学校という場を通して考え得る社会的事象について、文章に基づき考察することができる。

平成29年・30年の学習指導要領の改訂では、変化の激しい社会において必要とされる資質・能力を育むために、「社会に開かれた教育課程」という理念が重要視されている。それは、学校の中だけでなく、子どもたちが社会のつながりの中で学ぶことで、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持ち、その実感が、変化の激しい社会において困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になるものである。

設問では、社会のつながりが学習のきっかけとなる、学習や社会化の構造を問題文から理解し、文意に沿った自分自身の経験を具体的でわかりやすい文章として表現する力や、考察する力を評価の対象としている。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、在宅時間の増加や、学校におけるICT活用の拡大など子どもを取り巻く遊びや学びの環境が変化している。ベネッセ教育総合研究所（2021）は、年少児（3歳児）から小学校3年生のメディアの使用実態と、保護者の子どものデジタルメディア使用に対する意識について調査をした。

調査対象は、年少児（3歳児）～小学校3年生の第一子を持つ母親であり、有効回答数は、3096名（各516名×6学年）であった。

この問題では、以上のような内容の課題文を提示し、意見を述べさせた。なお、課題文は、表とグラフを含んでいる。

出典：ベネッセ教育総合研究所（2021）「幼児期から小学校低学年の親子のメディア活用調査-2021年1月実施-速報版」

〈https://berd.benesse.jp/up_images/research/media_2021124.pdf〉より一部改変。

【問題1】

表に示されたデータを正しく読み取ることができるかを問う。表1より、小学生になると最も選択率が増えている選択肢は「情報を検索する（勉強を含む）」であり、幼児の選択率は4.4%、小学生の選択率は19.8%である。よって、小学生と幼児の選択率の差は、 $19.8 - 4.4 = 15.4\%$ となる。

【問題2】

この問題では以下の2点から解答を評価する。

1点目は、課題文ならびに表・グラフに示されたデータを読み取る力があるかどうかである。複数の結果が示されているデータから必要な情報を選択し、それらを根拠としながら、説得力をもって自分の意見を論じることができるかどうかを見る。

2点目は、文章表現の適切性である。知的の文章として適切に表現されているかどうかを評価する。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

スマートフォンをとおして、LINE、Instagramなどのソーシャル・メディアを毎日のように利用する人が増えている。このような社会において、「友だち」とのつながりはかつてとは異なるものになっている。筆者は、現代の友人関係は、あらかじめ「友だち」という枠をあてはめて、そこに合うように関係の中身を調整することで、つながりを維持するものとして捉えている。流動性の高い社会のなかで、かつてのように時間をかけて親密さを育んでいくような関係性とは異なる友人関係が形成されている。

今回の設問では、子どもにとっても、大人にとっても、身近な「友だち」という他者について客観的に捉える力があるのかについて確認し、子ども学部で学修するための基礎学力があるかどうかを見る。具体的には、友だちはどのような関係性を意味するのかについて、筆者の主張を適切に理解し、自分なりに考え、論理的かつ説得的に論じることができるのかを評価のポイントとする。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

乳幼児期や児童期においては、基本的な生活習慣を身に付けることや保護者・保育者とのスキンシップを通してコミュニケーションを取ることが大切であり、そのことが子どもの健全な心と体の育ちに繋がる。また、子どもは様々なお手伝いの体験を通して、試行錯誤し、知識を得、他者への理解や共感、生命尊重の心情、自尊心を育むことができる。一方で、多様化した現代社会において、子どもが育つ家庭環境は様々であり、親子の愛情を育む時間をもつことは容易いことではないとも言える。このような背景を踏まえて、幼児期や児童期に家庭でお手伝いをする意義について考えることができるかをみる。

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、年齢ごとのお手伝いの状況に関して理解している必要がある。また課題文を読解するための技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。

参考：　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「家庭編」（「家庭基礎」の内容A-(3)「子供の生活と保育」）

資料出所：文部科学省委託調査（2019）「平成30年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究～子供の生活習慣と大人の生活習慣等との関係に関する調査研究～ 報告書」

編入学試験【出題意図】

子ども・子育て支援関係の人材需要の急速な増加等により、幼稚園、認定子ども園といった就学前教育機関においては、幼児教育の質を支える幼稚園教諭、保育教諭の人材確保、定着が喫緊の課題となっている。一方で、幼児教育における人材については、免許取得者が他業種へ就職する場合も多い、平均勤続年数が短い、離職者が多いといった課題があり、人材需要に供給が追い付いていない状況がある。

今回の試験では、①養成校の学生を対象に就職後の働き方の希望を調査した結果のグラフと、現役の幼稚園教諭と保育教諭を対象に今後の幼稚園教諭の継続意向を調査した結果のグラフの読み取りをすること、②幼稚園教諭や保育教諭の仕事の継続の現状について自身の認識を述べること、③それらを踏まえて持続可能な働き方を実現するための考え方を論じてもらうとした。この論述を通して、知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。

設問に対して論理的で説得力のある文章であれば、どのような観点から論じてもかまわないが、参考までに回答する際の考え方の一例を示す。

①グラフについては「継続して働きたい」という回答の差に注目することを期待しており、それについて、最近の学生の就業継続の意欲の高まり、あるいは就職後の継続意欲の低下、またはその両方として読み取ることが考えられる。

②幼稚園教諭や保育教諭の仕事の継続の現状については、編入学試験受験者は幼児教育に関する一定の知識を持った者と想定されるため、幼稚園等の人材確保の状況についても知っていたり推測できたりするのではないかと思われる。例えば、若年離職者が多いこと、平均勤続年数が短いこと、離職者の再就職が少ないとなどの認識が示されるとよい。

③持続可能な働き方を実現するための考え方については、給与や休暇や働き方といった待遇面での改善の他に、スキルアップやキャリアアップの保障という能力開発の観点からも論じることができる。

一般選抜 D 日程入試【出題意図】

回答例

【問題1】

資料1の調査の母数1,715市町村に対し「ステップ3」は26.5%、「ステップ4」は9.5%となっている。その合計は36%であり、617市町村が該当する。

【問題2】

幼児の教育と小学校教育との接続の展開については、教育政策の実施レベル（国・自治体・各種施設等、実施主体が多様であること）に関する検討課題と教育の質の保証に関する検討課題（就学前教育の「学校化」のリスク、教育の質の保証に必要な人材育成など）が指摘されている（秋田、大桃、2023）。

解答では「幼児・児童に何を学ばせるか」以前に「教師や学校・施設が幼児の学びの質を保証するために取り組むべき課題（教員・学校間の交流、共同研究）」についての論述が期待されている。

出題の意図

【問題1】

表の読み解きの技能を問う。

【問題2】

この問題では二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。解答が課題文の主旨に沿っている程度を査定する。課題文を理解するには、幼児の教育と小学校教育の違い、幼少の連携・接続に関して理解している必要がある。また課題文を読み解くための技能を有している必要がある。

第二は、文章表現の適切性である。知的文章として適切に表現している程度を査定する。説得力をもって主張を表現するための表現力を評価する。